



南魚沼市立城内小学校

学校データ

【学級数】 15 学級

【児童生徒数】 251 人

【地域コーディネーターの有無】 有

ふるさと城内

～郷土への愛情と誇りをもって、主体的に心豊かに生きる人間の育成～

1 はじめに

城内小学校は、創立 146 年の伝統ある学校であり、霊峰八海山の麓に位置する、中規模校である。

郷土の人々が長い年月をかけて育んできた思いやりに厚く、誠実で粘り強い生活態度を継承し、郷土への愛情と誇りをもって、主体的に心豊かに生きる人間の育成が地域の願いである。素直で明るい子どもたちが多いが、進んで対象にかかわり、問題を見つけ解決しようということには積極性に欠ける面も見られることも事実である。中でも、考えを広げたり、深めたり、分かりやすく表現する力を付けることが課題になっている。

そこで、特に総合的な学習の時間において「ふるさと城内」をテーマに、今まで習得した知識や技能を活用し、自分の問題解決に向けて探究しようとする力を付けさせようと実践に取り組んでいる。

2 取組の実際

(1) 地域の宝を知る

城内は、地域資源に恵まれた地域である。歴史的なもの、自然のものなど学習するのに適した資源が多くある。

2・3年生では、地域を知り、地域に学ぶために、地域探検に出かけ、対象と触れ合う活動を多く取り入れている。2年生は地域のお店に出かけ、どんなお店

があるか知り、3年生は地域の公共施設や建造物等と触れ合う。樹齢が 500 年以上の杉の木、八海山ロープウェー、トミオカホワイト美術館など、他地域では体験できない

「地域の宝」と呼べるものが多く存在することが分かる。

4年生は学校近くを流れる宇田沢川に出かけ、川遊びを満喫し、新潟県の名水百選の一つに選ばれている「雷電様の水」を調べている。

どの学年も様々なものと触れ合う中で、城内地域のよさに気づき、城内に誇りを感じている。



トミオカホワイト美術館



宇田沢川での川遊び

(2) 地域の達人に学ぶ



講師による太鼓の説明

4年生は「城内寄せ太鼓」の活動に取り組んでいる。秋に行わ

れる音楽学習発表会に向け、練習を重ねた。講師には、地域で「寄せ太鼓」の継承に取り組んでいる方を毎年招き、指導を受けている。今年も繰り返し指導を受け、秋の発表

会には見事な演奏を行うことができた。

5年生は例年、学校周辺の田んぼを活用し、米作りを行っている。しかし、今まで協力してくださった方の高齢化によ



稲刈りボランティアの方のお話

り、米作り体験ができなくなるのではないかと、という心配もあった。

しかし、地域コーディネーターとの連携



稲刈りの様子

により、学校近くに田んぼを確保することができ、米作り体験を継続することが

できた。保護者、地域と協力する中で、田植え、稲刈り等に取り組んだ。

城内地域は農村地帯であり、米作りに詳しい方が多数存在する。地域のよき伝統を受け継ぐ「地域の達人」から学ぶことを通して、地域のよさにさらに気付いていく。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

これらの活動を通して、子どもたちは主体的に取り組もうとする意識が高まっている。5年生の稲刈りでは、はぎ掛け作業を率先して行う様子が見られ、また、台風が接近した際には、「稲を安全な所に格納しなければ・・・。」と気付き、協力して移動作業する様子が見られた。またこの活動を通して、「来年は、おじいちゃんの田んぼの作業を手伝いたい。」「大きくなったら、未来の子どもにこの作業を伝えたい。」という感想をもつ子どももいた。毎年恒例の児童会祭りでも、新型コロナウイルス感染拡大の影響で保護者や近くの保育園児の参加ができなかったにもかかわらず、自分たちで創意工夫し、各学年の発達段階に応じて全校に喜んでもらえる出店を開くことができた。これも様々な実践を通して、主体的に取り組もうとする意欲の表れであると考えられる。

これからの課題としては、今後も地域コーディネーターとの連携を一層強め、地域素材の発掘を行っていくこと、学校での実践だけにとどまらず、子どもが地域に進んで関わろうとする態度の一層の育成を進めることが挙げられる。

4 おわりに

これまでの取組は伝統的に受け継がれているものが多いが、これからもマンネリ化しないよう、指導計画を見直しながら、その学年の実態に応じて地域の宝の発掘等、創意工夫して実践を進めていく。